

平成 30 年度 第 4 回鶴岡市地域包括支援センター運営協議会議事録（概要）

○日 時 平成 31 年 3 月 26 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 2 時

○会 場 鶴岡市保健福祉センター 3 階大会議室

○出席委員 土田兼史（会長）、小林達夫（副会長）、渋谷広之、日向常浩、清野肇、遠藤豊喜、鎌田剛、鈴木史子、佐藤八重、佐藤豊継、菅原繁、佐藤律子

○欠席委員 なし

○市側出席委員 健康福祉部長齋藤功、長寿介護課長佐藤正直、長寿介護課長補佐高橋厚子、同課主査五十嵐美恵子、長谷川洋子、加藤早苗、同課高齢者支援専門員上林一志、佐藤正、藤島庁舎市民福祉課長伊原千佳子、羽黒庁舎市民福祉課長岡部富美、櫛引庁舎市民福祉課長補佐松田重和、朝日庁舎市民福祉課長天然せつ、温海庁舎市民福祉課長佐藤美香、

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 4 人

- 次 第
1. 開 会
 2. 健康福祉部長挨拶
 3. 鶴岡市地域包括支援センター運営協議会
【協議】
 - (1) 平成 31 年度地域包括支援センター運営方針について
 - (2) 地域包括支援センターの公募制について
 4. その他
 - ・地域包括支援センターの名称等変更について
 - ・地域包括ケア推進室の設置について
 - ・「鶴岡市高齢者福祉センターおおやま」の居住費・食費の消費税対応について
 5. 閉 会

○協議内容

1. 開 会
2. 健康福祉部長挨拶
3. 鶴岡市地域包括支援センター運営協議会（議長：土田兼史会長）

【報告・協議】

- (1) 平成 31 年度地域包括支援センター運営方針について 【資料 1】
(説明：高齢者支援専門員 佐藤正)

◆質問等
なし

- (2) 地域包括支援センターの公募制について 【資料 2】
(説明：主査 五十嵐美恵子)

◆質問等

[委 員] A市B市それぞれの人口や立地的状況を教えてほしい。

[事務局] A市は関東方面の市であり、人口 4 9 万人、地域包括支援センターは 1 5 ケ所

B市も関東方面の人口12万人の市である。

[委員] 都市と地方では直面している課題や状況が違う。できるだけ同じ規模の地方都市について調査した方がいいと思う。

[委員] 議会答弁の際の反応はどうだったか。

[事務局] その後、原課に問い合わせ等はなかった。

4. その他

・地域包括支援センターの名称等変更について (説明：主査 五十嵐美恵子)

◆質問等

[委員] 地域包括支援センター、地域庁舎ではワンストップ機能が入っている。その効果や評価はどうか。

[事務局] ワンストップの機能は地域庁舎では藤島庁舎以外で実施している。庁舎には市職員も居り、円滑な相談ができ好評である。旧市については、地域庁舎のように庁舎に入ることはできないが、高齢者に限らず障害者などへの対応を視野に入れながら、相談しやすい体制を整えていきたい。

・地域包括ケア推進室の設置について (説明：健康福祉部長 齋藤功)

◆質問等

[委員] 職員がこれまで以上に忙しく疲弊することはないのか。

[事務局] 推進室で既存の業務一部も担うが、目的は様々な施策を調整することや、地域医療を進めていく担当であり、業務は増えるが、それにより各課の業務量はスムーズになると考えている。

・「鶴岡市高齢者福祉センターおおやま」の居住費・食費の消費税対応について

(説明：高齢者支援専門員上林一志)

◆質問等

[委員] 整合性が取れないから値上げするのか。

[事務局] 当初のユニット型個室を普及させる目的は達成されたことと、「おおやま」が10年以上経過し、修繕箇所も出ており、居住費の用途としては施設の建設・維持とされておりその確保のため、今回のタイミングで値上げを考えている。

5. 閉会